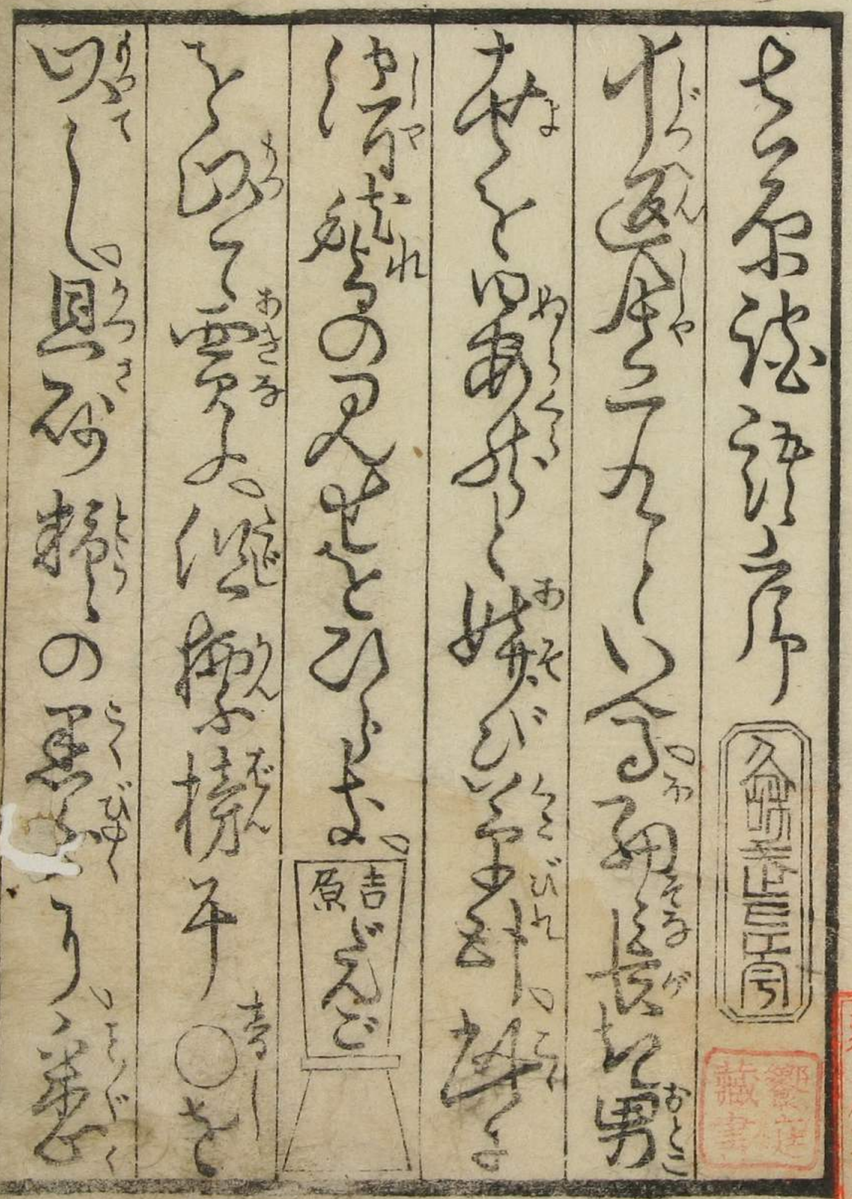
へ13
2132
76

76
2132
76
132

全本善

讀書
久留米藩主有馬家
饗庭文庫
饗庭文庫



はしりとぶちゝ
〇あやし〇おろし毛血
面ぶくろ
おろこ五十の宮和山のまとの
呼子の山ふかきあづき
ひでしとの郭蛙
ひるとと毛の武蔵
おろこの武蔵

龍の仍中通
中とる男子子
とと毛と毛
乃移出子存
おくしと代

石井蔵門

同序

浜松

ことし嘉歳余ごの初夏よ。赤松乃枝
さらに命月。そこの命月の宴ごの年。
さびざる緒を釈て湧て同日赤一の春
ざんご
同子。ひとつ。ふたつ。佛供中を
ゆう
ちらさら命。ちらさら命。ちらさら命。
ちらさら命。ちらさら命。ちらさら命。

深く。紙屋の口を塞ぎ。
牛ちるまし。紙屋の
皮の。袋をせし。鬼の皮のよう。紙
紙屋の部屋にて。雷しの体なる
女の中。下駄屋あり。
祥山千世を。
平て。女を逃がす

墨の塗りの。女の。
紙屋。下駄屋の。
女の。袋の。紙の物。
の。
ありて。
仍袋を。

蕎麥ゆをくらひ下し七ツ過ぎ
こゝ地悪敷を覚し掛ちゝ帝元善
かく〳〵咲ゆ吉原園子あり。いとを
地獄ふ咲て出さふ冊奇
なる狂妙でぎぐくと。こゝ迄八日出
五ゞの吉び。蕎麥くゝ雪年より茶

乃新を。偈ひ狂多の吉五園
子幾個のゆ。ゆ春ふ年〳〵偈ず。
芸ゆ園子の少絶を夢ゆ年ふ
閑しゆ斯のぶし

十返全二九志

成子五年四

凡例

○洛陽橋の太人山下街の阿兒倡家の意味を著し年々に新手を尽して世に行る滑稽の帖少し〻故に野生是を編むと雖前に其意を尽して曾而其屑も此で偶一客人に後援を得て以而其見聞に據ると志を因茲根〻世話入ざるなん必

○此吉原談話ハ余が著を他の帖と其意味聊異なり全肆の注文に應ずると以て滑稽の詞を花と〻實情の其實を結で全幹を濃に次

滑稽吉原談話

十返舎武述

発端

大和国沿の国に山むら沖の国に山むら女あり其それとよばる男二人有る。女をのむぎ〻の流さ〻んふとてあハ沖と男男子に二人の男ども の年よハひ那〻とちぶざ〻のわどもに同じやうの れば女ハりひとびとひて。世間のあるを村 あそさ〻んに男のとに。紀とまろせそべ〻んと

いふ時。この男がもそのくるとひとしく行ろうれ
女めしいふべくもあらば
さきこうびゆ。ぐ分かげそんたのこゝの
世間の川はかのこゝろうりの例
こゝ時そ川よりぶつこゝ落入ぬ。このよりこゝ男
ふこうもやぐでおなじ。ぶ分入て矢をる下界

作者曰 拙ゝ中こゝいこゝ書体曰 かゝるゆゑ
そのこゝ人の筆抹ゝ紙ゝもざぐうきこゝ 作 た

中こゝ方抹ゝ十九中こゝふもその考ゝ書ざぐうゝ。
今ゝ日ゝ三ゝ月ゝ屋ゝ名ゝ命ゝふもう死きこゝろ。
たこゝぐそれこゝおなじゝ世裏ぐざぐう
きんこゝぐいたきんでうゝこゝ考ゝきこゝ 書
ドルゝ人ゝ名ゝ北ゝ国の世裏でざぐうきんその信
妓ひこゝふ。色間ゝこゝのは詠句こゝ人ゝきこゝ
作 さゝ中こゝ国孫ゝ人ゝ方影ゝ考ゝ数ゝでにゝ
つけこゝこゝ刹ゝ名影ゝ考ゝでざぐうきんそ

宿題

窓格子意
隠思意
不言意
刖意
窓書意

右

志のびよる格子戸ごしてあなおりて
人目をのがくむろうなりめり
まがよる兵法へでゝおすりな此れ
風のくてうりをまつむろうりありし
ごひしさいまがん二シさもんぶんは
まろでいはそれぬむなのでくらしいふ
見ぶひおさまるれつらよあふえんの縁
様こしがりしまやむすめひとせうん
今く文よ妹がりしおもにうく思ふ
ありしれどよめぬこうろ様へろし

第一 窓格子意

容格条 そろふうぶれをとうくしぶろちりめんのづきん名ろくは
まれてずんぶしやのひるすだれのむそうれんちうつむ
ぎのゆそでごじうれおちうとこれの下へくこし。ひげ毛のりうし
さだを。まどつひゝわるくへどれますまれちうもしゞの
のさる。なむさをとなりしが。今ハオヤおそまりかくして。ぢそこうれの
あうがそくおれ。云いずしきたゐやらまで作意がちんぎよく
ゆそろうてれ 浄留里 ちうそやや。弥ふへあしぬうこ
のましあれ
さるしくよの目ふぐちうふのるだろう。小まぶ深
く大数中のくまりあふろこしめるへ今うへむ
まぶの弥生月 挂 せられてあそれぬ。風と

なるうちてといおれぐるまでござるぞそなあい
てくるのぐごゝトひとりでをうるぐらぶれろぐるうぐるゆふ
ぐすうるぐひとるよおりくぐてきめ
あけくるハ 拍 みどうりく 毛こどろ ぐれごのふトらえ
ゆるゆるとなの
おいうん 春風 拍 糸さんうまつていなんしゝトおかへ
ゆくしゆてまうゆるゆるゆるゆるいうしの日紙へうてまれて
いるとまうくくしておうんぐるぐうぐうぐ巳のさんとつめゆそて
くとそれを 拍 さうきゆるそよいうてゆいて
おいづう 拍 さうきゆるそよいうてゆいて
うゝゆさ 拍 ぐるいゆゆへゆ夜へうようとおりいさ
春 よくまうていておうんるんしゝゆゆへ山ちゝ

さんよごゝづけをしてちあぐへしうけぐのりふく
ヨろちゃァおめへさんよおいくてく 拍 山ちゝ
のをるしでゞぐんぐのよよをいきふさぐおれぐ
わうのまうもぜんぐめゆふいつてよこしゝさ
とゆうあんぐくまでへも移へとさ 夾 おめへさん
ぜんぐもきゆんしゝとそふぐんをぐなゆぜうろ
ちへへをうるんせんへ 拍 茶屋ハふさぐる二うい
へとゆうれる十二ゝ五へよゝれるめんう 夾 それ

でもうーしまでなうもぢお出ゐんーて。えの
ぢさんとよびごーて。おくんなんまややよふ
ざんきよ。きてやァ若衆屋のうしみぢさーく
さるーとーてぢいなんーしーとうよてざんきぢ。
ぢれとぢそんるよぢうるーておいでなんーしさぢ
千代ぢるさんーぢやァおざんせんく拵ぢうい
ヨろーしぢそこどころ戻をれでもやーとうびぢ
ぐこうけいきとぢいよんがおざういきうぢろ

ちやァそれときていきとぢたうぢうりてく。
人のおりよよふもを移ぢうーんでだうう
おやこーーぢよくくおりくびぬーも今んなよ
うふこうだうなるんーてよりやりようんも
らーーいるぢんなをめんとぢやうんもはけて
こうぢんよこうーてちうーーてもちやくうん
のこのむ移よこるまへおざんせんぢびんど
ーおりりておうんなんーー　トうしのあうこうよ
をうーうーうもと

うんぎゝおちて。チャランとゐるぴつろゝゝておろうと
ゐまいをゐ内おりてゐるゆゝゝぐびつろうあんまの 笛 ヒウ
玉ゑろう ゝまアごゝまごウ 拍 ヲゝむ福ぐどゑくく
きるトゐでおろておれも。あいゝきゝふゝゝぐぐこんゐ
ゐんをぐらしい。ゐゝでいるものぐゝゝぴろゝあい
ぞぐつきようゐゝと。それでぎてゝとゝろどぎゐと
ちゝくてゐるもの。ゐもゝゐやァ はゝう福へ。
ちうんゐゐおりりてゐもはきゝゝゐへゐんぐ 囃 うん
みゝてちうんちんゝ。ゐうゐゝらゝうなんをゐ。ゐ

ゐろちゆへのゐゆぐんを 拍 ソリヤァぐゝあせ。おゝと
ぐへぐぐ。きのどくゐゐゐのこれくゝのどゝろを
どゝゝゝゝ 囃 ナニそれい。ゐろちぐゐゐうで。ぐゝも
はぐゝいゝゝいまで。そゝんゐゝゝぐゝらゝゐなん
せぐどゝ。どゝゐぐぐゐ内のはきぐんのゐをゐるゝゐ
ゐゝゐゐゝぐぐりゐ。どゝゝゝぐゝゝとへゐ。ゐいでゐんをゐへ
 拍 ナニどゝへいくゐんぐ。ゐれぐどゝゝゝうで。ゐへ
ゐうゐまゝ。いろで。ゐゐゐゐでゐゐゝゝてゝれちやァうゝ

こゞぜぞうりよみになつてせんぐてろまで
が悪い御ぐちにゐりて。そんなこともだらう。のんじ
ている【奥】ヨヤ宜らぢゞゐにやらふ。そんなことをいく
いまとやめられんなりやう。きんなるみのつまるをと。
おめへさんはおれから少しいせん。くやんなこと
をちりやりい【按】そのんまち。がへハ緑多よ
【奥】志んはそうでざんす【按】ごまんべ。志ん緑二めん
あそこぞふめても。てろがうるときやうのへぜん

【奥】ソリヤアぎうしてもん。のうるぎ。んれへはおざん
せんが。なきぜ又。そんなことをおつしやりやを【按】
イヤでくふよるよと田舎へいれるぞ。ふまるとを
こゝもおれの緑へらう【奥】ウヤ。なせいやらへお
出かんさん【按】耳があるうぜ。ひともいうめヤア
なつ緑へで【奥】ゐんまへいうぎとも。まくて
こくなつ。ぞよぞよしゆしておらんなん。
ちうとのる。あらおよりてさへ。うなしくてなう

いせんりのとそんるよ。一ぬんを二ぬんもあられ
ぬへよりそよかりいしちゃア。ごよいこしいせう。
こゞれぢゆう。ちあよりうゑのこゝアあざりい
せんなぐぜちんるよ。おもいまもゝ（トあこゞぐ はうること）
ゆふしへゝしよひつこゝろとうゝぐをよこまゝてゞまこゞりと。
うしのるへはろこゝちいゝんのかてこゝろくいれでづりとしきよセ
【挿】おれゝ。それゞいやぢうゝさこゝかゝしよしてい
うゝとおりうこゞそれでへあとでまこゝうこゝまざ
れよ。ひうこゝと又ゐうのものよ。りつうれちゃア

なゝゝ行へうゝそれでまあゝてゆくのぢゞ。
てめへようゝぢうちよ。ぢをよさいぐあるものう。
てへゞゞへのこゝる。十二れりものぢこんるうふものゝ
ををてゝ【挿】ゝりやアそゝふでぢんしやうぐぢうぢ。
どうちへもいゝぢる。今ゝのところこいなんして。
ぢうちゝ 時それをきうておいでなんをやアをうちゝ
ふへ。おやでさんの出きぐんもをういしやうし。（をだる）
ひうちも又どゝぢでいゝゝいしてせめて小兒屋

のふうのぐうとつけくとあとこでどうとも
おうういきとうぐうとおいでなんをを
へやゆふておくんなんしる 拍 どふも。されば
だうりいやめれ祝へ用ゲある 奥 おれつてへ
のへ（トきぶーるこぶよ　たとぶるくてそふしてぴつおいでなんをへ）
拍 さいくよるとあきりてうろ 奥 ゲ ぞふ
いさいきうそれでいりふたきりぎうでこれ
ぐいくねこひぜんをうへ（トきやくのえうをぐうとり川よをみく） 拍 コルく

こへ
ぐうこいきづうふしや。十二 そんるふなくきぐ
あるめんぜりよあり祝へといふことでへるー
又あうちへいうてもあうくの同きる作へおよふかさ
奥 りんよそふておくんなんしそれだりうりぐ
さようぜんをのしー又ロうちうりうりゑを
もよいきとくきやアぞへぐーくーとぐきりきへ
拍 ソリやアこてよ。ふあふをしてりつてきこへぐを
べぞれよさぐく（トくくへへうりうきつけりと医ろきを） 奥 ぞふぞあそその

だんぜ。まゝ来ておくんなん〜 【拍】 ことゝもぜ。
よいいりよくろくぜ。おさぶよ 【丑】 コレナのよちろと
おさなんゝる 【拍】 イヤそんりゞおそくなる 【丑】 ア
まんまあゝこのだんお出なんゝぺそんまおめく
さんぜ。おあげヤいまそりのゞおざういまそそたい
ゝまゝつておいでなんゝ ト「そそゝゝ」そておくへおくと。
「ゆゝゝゝ」ゝまそとまおんぢう
ゝふてんぢおのとりつておりてへまろう 【ゝゝぢう】 おいゝんのと
こでこれをおあげヤいまそと 【拍】 ライゝなんぢ

トゝまはとうて。あけてゝれば。ゝれぜゝゝまゝゝトかとゝんで。
ついぜいこんるかのとまくゝこうゝこうゝまうゝまどもてゝゝの
ゝふまぜゝこうゝのるたゞのものの 【丑】 又ゝゝしのりゝるぎろと
ぢゝ。おうゝくゝもまろゝゝし
おいでなんゝ 【拍】 よゝゝゝ 【丑】 まつておろいます
おぢるゝゝなんまる 【拍】 まゝちゝぢ。おさぶよ
トゝのむくゝたぢゝこのまヤのまヤ 【犬】 キャンゝゝ
ゝまよ。おもゝまゝまぢくゝ
チリンゝ 【まゝゝゝ】 あをやぎ
あゝ拍まそゥゝゝこのまそゥゝ

第二 隅田 思 意

セろいいちゝセ。おつぢけのあゝろ。ぢゝゝ。おセッさぐう
まんぢゝうふろ。ぢゝゝうゝうけてゝる。おゝゝんぢゝんの上ゝことゝ

出さきうのあるをうつとゆるがんをこしらえそのうえをよ
ろうだいかぶとこしらえつめよてをせさこしたんとひく
[のの] あのへうたれのまれのおやきんてもう死のもう
かるさん屋敷のひつじのあゆこみてをもしゃし
はずーまの [丈風] いろでやゆふしまうたてようおりくのふこ
おちんーん のこようとこのーこまらーせーがこのごろへ
えんてそのおこづれもるくあんどらーし
おりいつりうでーゆこうもをこらして うのさん どこ
でこうこうがおざんーゆう出ーておらんなんー
[ろうだい竹里] どーあでかんーこうへ [番形着の] おいん
のとこでいこのあくぶうーつそおうーるうれ

さーってでぜそんなよ。ゆさげつーゆうゆ。そー
てころぶをいるゆだういうろーゆるうー。
ろちーまでが。あるくでも這へよよなな
のちでおざんまをよトいるぶーふををて
をさう [丈] 若生さんいろぞや。菓さんげりりて
来てがらんなんーさのいぞよなんーさ [若]
なんでおざんまをへ [丈] ソレ [若] 松乗さんの [若] ア
おうこうへまりておざんさて [丈] 出ーてお

こんなんし 竹 ひさしいものざんせ。そろうゼ
さんのよふな。きろう新人よりのハおざんせん
よ。拾ふさんのもつぐんよなれるんが
ねしがどのようなまおりひなんしても男と
いふものハきまのうろやまいものであつちろ
ぢやア。又どんなおりろくとがあるゆしぢ
れいさんものとのハそぎろよおりひきろて
おちやひなんし。それがねしの兄のあるざん

まそ 表 ヨつちもそふいかもいまをがなぢらぢ
もきふろうつて。ヨまれ新くもぢんぢてざん
ちゃうそれまを拾ふさんもいなろくいきなん
しと商ゆふハおりくとろもちるとさが。
このぢろんひさしくふきもよこしなんゼび
まろちろさよろをしてもそのろんじも
なんせんぢくざんまをりぢ大ろおつちろで。
ありしろくことができくしとろくとがもいして

いつそそれがこちらうざんを行りゃアなるやど
ゐれさきゆく人のこてこア。飛ふるいのちうも
久てゆりしうのざんをうそれへ自ゆふあうれ
いまとこれのこざんをまこと。まこうこさきゆく人の
かりうくこうよへなうでんでうこのちのひと月
うぷさ日のうちうがこれといふものざんをなぜと
あうトゆうイしうこうちうがゐれるゐどのあうくるゆう。
人もゐれうをりのざんをうこうかのうどうこれ

ゐぷうごとうざの。ゆ。ゆい。合ざのとうぷちどこれよつうひ
なうんてこきゆとうでいそ。来なうんをあう人い。
あうきううへ。かざんをうこうんをりゆうア。盃ちう
さんのようようぷひさうく来なうんをきゆく人も
かざんをうぐそのうりうあうるかぢれさんでなふ
もうこうちふうこうこうとうふきゆく人でんなう。
ひうきふううぐこるうこうこれのさこでううこうぐこの
うここうこうぷうんのぷきけあうここゆうざんを

そのまゝこゝへてうどねーぐ。拵糸さんのことを。
そんなようらうよしーなんまぐ。今ゆでも又。
ひようと。まひさあんが来なんして又そのお
うさよ。ゆれてゆろくぐいー。拵糸さんのるい。
ヨまれておちまいなんまぐろくそれぐろう。
くるーこぐ。さのーこだやァおざんせんよのーこ
ぐでいまと。くるーこいこる。ヨまれてちまい
まものざんまコりやァはとめの処だろうだやァ

おざんせ。あんのうもそのまうざんーゆう
うーひさーく拵糸さんぐよりとーなん
せんのあちふなんぐよのーこぐできく
とりのざんまよ 若 ろんまよおいーんのさぐ
けこもよ似合なんせんなぐあんなふ。ヨひ
なんまもう 夾 りふく。ろちやァ乳やう
おざりいまけよのよおきくとこーいーこ
トひざのうくよひろげてあるなのうくよふくうとなこぐ
わーむけ内とまりぐーきのおいーんぐろとのぐのてんり

青柳 夜風さん。おくよろこびなんし。拵糸さん
のさようがおざりいしとトうとうぢちと
おくせなんし 青 イエ おめふりけくまめ 夜 アリサ
おだしなんまる。ちう〜おめくさんのろう。
どふしてめうりいしぐうてんがらきふさん 青 ソレ
月なんしぬしのまでがつておざんま 夜 ちろ
ち人おろんなんしるトむろうろろ ヨヤくぐれが
りりてめうりいしろ人 青 アノね。こよい。ろちが

きまくしぢ。一ぢでまなんしおうこがま。拵
糸さんめりりていなんをいるのろう人いき
なんしてあつちでんやをくまるれさしいよ
るざんまそれでそのろくまこだろりて来
なんしとうぢかめくさんへだけてそれろころ
ちとおくこのくなんしそれままぐまやろ。
おちくなりがおざやをのをくさ 夜 ソリアぐん
るおうくぐく 青 てくぐ。拵糸さんのようまる。

おとこごんもと（トいろ〳〵きもとのろうのろうとのぞき）ほろ〳〵ぶし
あつち〳〵のぶりんのえとうをきてぶいなんをん人
ざんも 竹 ど〳〵ろんよぶいぶ〳〵おとこごもよアレこうひ
かのんをとこごぶいつそをとをさんよ。似ていなん
をこる 図 ドレナおこせなんー。ジャあのあつ人へ。
こ〳〵ら愛田ぐでよ。ぐ〳〵ろけいをよ。おきやぎ都
こんおめくさんのあつ人ろ人 看 こようぶ。ちんの
あつ人さ。アくむこふぬなんをあぐこぐ〳〵け

のぐ〳〵いづ〳〵でおざんこんさぶふんをこを 竹 ぐをれ〳〵
あいきを〳〵あぐこ〳〵こうてぎんざ〳〵でもおざん
ををめく 看 ろておぶ〳〵ろれなんをこを。をこう移人
ぐをこうり トろうををこうあており〳〵びあうしと（ひこうぶんこうて出てこうり）

第三 不言元

こをこうぶ〳〵きの話もおさやこうおとこやぎのあつ人。 客七次
なちのこをこをこうこと。一元のきをぶ〳〵ぶ〳〵ざ〳〵きくきこう
あまこう。きこ〳〵〳〵〳〵もヒねふこぐ〳〵。ぐぐをあこぐ〳〵やぶふあこう
ぶ。ろんこ〳〵ろるいこらよいろおこ〳〵ぶ〳〵ろんのよこを。ちんこ〳〵をこうて
ろこと。おいこをこのおこう〳〵。元山。ぶ元のこ
いこりこ〳〵ぶこうこ。をこうこじをあけてをこう 元山 ジャおめくさん

サゼそゝ〳〵ておいでちやんさん人 七 おあ人ようゝ
さんへ孫もやア。ぎうりゃさまま孫人 兄 りゃアけん
ちんちうでおざんすよ。ヨウ〳〵すまあそうを
おゝんなんゝ トたゝうとぬぐとてゝ アノおいゝん
まうりすゝよおきて
のゝこでさんやぐ。ちあうげさんおざうゝ
ゝこさんけんうくゝかゝるれのうそゝでどんでおある
ううゝうぶんをぐ。今きやゝ人げまなれと
うう。のちんぐおめよ。ういゝやゝと 七 アイ

トは門ちうあゝのちやぶいよぶゝきそのちやうんを
きけてうこるまおもとざいくのさげそよこでぶゝゝうゝく
ゝうゝ今をぐれるとめちきゝんそ 兄 さる山さんよアノ孫おいゝんの
ゝこそ。今うのことよ。よゝうくちゝのんちゝをうサ
兄 そそ人おいそいきなんゝりゝおいゝんぐ。ち
ちやとおまのぐうなんゝゝ 七 これいちそうぐ
トちやとうのこそれ中の月をふろよりそうよ。 奥 いそやま
は門おのゝんずくそゝゝさりゝ
さん 兄 こそ人おいそでなんゝ 奥 りゝよくおぶ
なんゝこそうきんおまきんのおみことおせと

さるでちざりいーしぃ。ひきーくーとうぐおぎん
せんらーいろそあまんでゆてあいつと 七 ろ
ちも四人ぐらいで。おきんーぐんそくいさー
ゆーとうーちかくのちーもうーくきゆーとぐ。
さぐあそふーるもいろーくそのうけもさぐろう
やーゆー 夷 ちんせろよおあうぐふおぎろ
いまそーかーそ。おそ。ぎ。おそうちなん
せんらくん 毛 ちんたらぐんうなさるぐろんぐ。

なんでも。くーくんうて。ちあくのうちぐ見て人
ろうそあっちでもうるせんろどちあくのさく
ぐらいろうてゆきと 夷 ナニうそゆアるーー 毛 お
いーんのーこそでもいろそらうるきーうていひ
ぐそそふぐふでぐろいさろしゆうーぐんる
いとーーちぐんゆきさよ 夷 それるひさーくさ
ようとそぐおんなんせんーぐんぐ人ーくあっちう
ふぐメちのーろいるぐ。ちぐろいさぐろゆーぐ。ちもう

きそだてるこそのでざんしやうでおきそをん
しる 七 さこそんるるのいなりさ 夷 おめくさん
もひろあるのきつのざんしやうろおくし
なんきそよ 七 十年こもづくるさんるそよいよ
るのしやア稲へ粳ふきんくふひろ不よぬて。
きくぶ
ひるのよりのしこるちごろ。さぐ歩ふいりん
もりるうくくよしてそんるこんきろこ法く
きんでぬやしこ今春むさだこが毒しかるれ。

きんよあつちしやアおいくんのこだろひろう
ふしてさこめて今ごろふぬもうころてるご
ろふがりの年もまよのるまでごろうり
ひろちがりくるのこまろてるこいふよふるる
なしさろそくそのるこいてよこてられ
ろくろてさこめしふもそこそろでごろや
きあうきよひきしどめておめよりろてなれく
しいこいふよよしどがを毒きんもうこさるぬ四

ぞつよおやくのをひ
うゝ。ゑようとゝ
ぢまて。まつていな
だゞなゞゝ。ろちゝ
まるゝろさ 図 ど
ゑさんのゆくゝ
ゝもまよゆゝ
ハ何でもおやくさん

いつてゆくゝ。ぞこれゝ。ろちゝ
といりまゝぞおりて。せをゝておらん
ゆんゝ。おこのこゆいを 巳 りてゆくゝ。ろ
ちゝ。ろけゆりてきゝゝ
でゝ。ろくんゆきよゝ。ゝ用がゆるゝ。ぞ田
ゑまでいつてよゝゝなゆくゝあゝゝゝ。ろ
でゝ。ゝようゞあるゝゝ 図 ろんよおやくさんゝ。
ゆゞ田ゑでゝ。ゝびゝゝおゝうけゝいゝゝ。たゝゝ

こうしやの浦風さんがおなじことでおざんしたさ
よ[七]ソリヤナいやならう客人のはなさ[吏]いま
いへ[七]今ハあてなしさ。おめへがこのよふな子せうハ
があるとくるたり合もありやすが。ねがつらう
法かう程へ女ハ出来で。どうぞいつても。郭がられ
る中へきまりやを[吏]うそとおつ見なんし。
それらも今まおとつこもおぶんせんさつと
あらう見ゆうつらちうがとりへおらぞでなんし。

おらちがおきしやうとのしゆう[七]ソリヤア
ありがてへ[吏]花車さん。ヲヤこの子やよ。コレナく
いゝなかうよしてゐる をおまろうおてさて おぶんがずんぱ。ちそうとみさくはし
めへ。おまごとんと。おれなしやまるすがお。おざ
あんまとあしくおりえりなんきと見ちよろうと
まみとしておらんなんし。花山さんがなかしず
つうもれぬんそるへ[七]おつちもだそしがまご
のこりていゝゆゑと。又あきそのあさ。おやふうり

やしやう。おもやをかりて世人 図 おさのこゝかさう
いへ トのこうるゝそのまゝ はきものゝじをあけてらうかの
あとさらへとそこ はきものゝじとあけてらうかの
おとをとろうそれ

第二 到 意

ろうかのまへおのまへおもんぐるまぐちだるまーきやく
のうらとさらうノゝ ろうかのなかおもんぐるまのぐるとまた
るゝ。 おせん 著め モシヤ おいらんへあんまりうおめへさん。
ゆうとくらうまなんさらう。おんるま 板ぐ 枚
けんかもコレ はろうじいー をうぞ井里 たれうへ
おまへさんのこうもおざんせんへかんまを。

七さんゝゆゝふどふかんゝ 図 この月乃
えーじゃうぐきさゝつさゝぜめて七さんで
もきさうつきうと。おまへさんのたゝーをさ
きりていうそきんやうぐるゝ。おい
らんのとこでもうれしーゝつきうが。なぜゝそ
れゝゝふすぐおせやのんせんぐゝぐゝぐきさん
きれべよのざんをよ一トたうのなかしん 図 りゝ
今。七さんゝぐきるさんまーゝ 図 ヨヤうんまう

ヨろのきんどんでもようふざんをろ〜ぢろと
むさんでおろんなんしー〜ト　続くうれしさ　若の
おいしんのとこどやア。七さんとうとこ。ぎをよ笑
ぐやとさつしやるよ　図　まさおなぐんるんをよ。
コレたるゆやりく〜ぢ。ぢ山さんのとこへいつその。七
さんよぢおやちやてありいしるよくおるん
し〜ぢ。今ろ〜おめるくうるいやろ。そふりふし〜
てきやぢ。コリサたやくくよ　図　るんざくぢろちろ

あんきろぢやろヨろういせん。ちろうぜさんいるる
ゆ〜〜　図　なんぐえ　図　ちあへさんぢ。おふさんのる
とぢらろるおりそるなんをしありやア。又
七さん〜きろなんしてそんなよぢれしぐう
なんをふせんどヨろちがやいろろろ。コリヤア
おろ〜ろぐできへ〜ろろろ。ろいをヨえ　図　どぜろ
ぐんをとぢ。十二をんるろ〜ぢろいをりのろえ　図
それでも七さんぐつぐろおぢなんをろ〜ぐ。

さんこそ山さんのようなるものと。おげそおおそび
なんさものの。おめくさんの自慢なる。そを山
さんごけがう。ーろぐ〜よりおざんを 丑 うう
ゐも。そんるつもをぷりておそんなんをる。くよ
きこくても。ろろふざんを。ろちゃァそんるを
ぎゃァおざんせん。なんがるぐてありい。ーて。
おそ丑さんの。めくわおざんをものとそんるをろ
できんをものろそして。ちきんぺ。くをぎ理

ぐてんおろさんを 丑 それでも。今までぷ
さんでいるんーさぶ。ちきんといとうんがり
なんーようぐひとろりぎゃァおざんくよ
丑 りゃァ。ちさんも。ちんさろよりめてからんなん
きーしろちも又。いろ色の。えのとぷくさァのけ
てぐでなんをもをーよ 丑 きぐごといよのぐ。
ゐろぷぷれさーろのでおざういを 丑 うん
みーてをんなんー。ぐろしろうざんを 丑 ゐくん

さんいつこうふんくさ 夷 なんとぞもおりゆり
いしゝふらしいさけさとさんごさう わるめひさ
まるえくよふるくゆうろうくてこをくく
うけざをとちさくさちんぞうひきらざす 手ヤシラ
○いたゞかあせそのひいろとよるまをるゞゆーざ
きよひとうねころびるゞゝさせるのそくじをていくこと
ありくさ
おりん 花山 おいくんげさうきよくうかめくさんよ
あいさゞりてゐなんをゞあくゞいうをを
なんせんくゝおれうこゞりてお出なんを ドレ
又ちくろとゐんそあくいゆう ト出てゐくこゐも
なりがらくゐん

そくとちあくゝ
とおりてくくり 夷瓜 七さんおひさまうおごろいを
七 くろちるこくくおりりてゞイはゞをさ
ゆなくゆゆくさ 夷 そくよりなんゝおくうこゞんを
よ大くこくうを屋へかおいでなんゝゆゆちよつ
くでもよりておくうんなんくをなりのゞさん
をくよゞくゆも俗くこいりのゝかくうきんものゝ
ざんをくよ 七 さすゆ
くくふこくくを 緩くゞ屋ふこのあいゞゝ来ゞをて。

夾いちだんなる　とちのやりぐ。おやくさんも。
おとなさんと。中めいてきづざんを。宴の孫人
ぐすぐうう　七　ぎろくあるうをぐてこなる　夾
こうしやくおいでかんくちやうたるわぐおうを
ぎそぐ。おてすうかんしゆうが。ぐろちうあやうき
ついものざんを。ぐろうぐいーぐを。ぐさんもを
のちふきろぐ。ようもちなんせをぐ。ぐろも
ぐやうろうん。おめくさんへあとうこゃて。ぐまでを

あこもぐいちうぐ。そのろんぐもなんせん
ろうくでおざんをろう。ろんなる男といなものつを
の孫くものざんをそれるせるとしてやろみく。
あるやういとおめくさんもちるものおとぐ
ふちぐつして。孫つうう来てもおろんなん
せぐ。ぐろちやアちろんるくのようふあいう
をろう。ようふてありつをりめと。あん
ちうぐ。おいをう　七　ハイくあやまうさ

[六] ちゃ〜百のまるなどんざのようなこゝやし
さそうんるよいどめいさもひつまるゝ。おとさん
のろうりざこちもいしてして [七] おとさんのうろう
ぜ〜ちもりれやあ。ぜんるよいぢあられても
あんりうぜるそぜ四きぶぶちろろされと
もむりい和へおあんのようるゝよのある歩ゝ流へ
あんまやあるあへ。おそろしや〳〵 [八]
うやいうぐんるよおなるんなんーートもびひざと
ちゝゝゝゝゝき

りしるゝおめへさんぐ。あへまうおうぞなんさん
うゝ毎日いぐーてへ。ひろいれいを [七] なぜ [八]
さろきもおきゝなんしぃおろくさぐ本なん
ーさゝいへてゝときゝいまゝぐいうれーくて。
ひろいゝーゝゝ。それゝうえるぐぐそるぜん
なんーて。このあいぐぢやあ。おとさんのとあ
いうぐぞるゝ。ちさんのるゆおだろいろるゝろて。
ぐろゝ。おあへさんとぐるゝごでるーそろよ

よいとられつきそうくざんきを七ゾリヤアうそそる
でるおめくごとぞいそぐ〜そくいとれアちやア
わんわうごがきらーぞんるもなくて。浮き
るをそそられてへうまく移へらりみごの
のちへめくりまきめく夾ヲヤかぜべちやくさん
ぐそそいつておらんなんーちやアろちやア
ぐよいくーいせう。おをネさんへいふういて
わなんきーぞ今ぐヤアぬーとそろうみて

あいつまとりのとそるアくの口ちやアいろく
ざんきをよーヤぞろぐそぐいとれいーてる
こぐくのろろが浪白なりやアぬもまひ
なんきそそアぞざんせんへる七それへそぐ
ろくぐそぐもぐろちぐられへきちやせん夾
ぐかーてきそれせくへ七よくうんぐくても
こるせくなんぐ。ぐくへまろぐふーてね
てもくまうきそそそられちやア。ぐく

の分もきまるなるべく拵で。そのをぢひよろ
しく。おとをさんの耳へ。ひそかにそうもうしいろど
ごろ。ごろとそとそろ。人いたぜんぜんとらみ
るのへ。おめくとるつもちがき。ものいるようやみ。
伽も弾と拵めるかるくいなるこそそとそ
きもいりかるきもいくでもいりかるといかの
ごろ。ごろちでも。義理のうるるとみる
りのでつくもゆくたとさぐれかるようろ。

りのこ五人めてうゆきをめく 丑 今きとうおめくさん
きでぶそとおろておろんなんちゃァてろ
ぶそうおざりいまトうろむて 十七 十廿日ろちぶ
紙へどもでもいてぶ。ぶろくそよろてくは
てるおめくぶかいてぶよるりのこいろぶと
ごのやんのこ。ぶ日られちゃァ。おめくもどべどんぶ
日るうろくろこ。ぶろめくをうぶよろよ。ぶられ
そくしゃせうく 丑 イエ日ろちゃァ。やうろ

人しやごとしいはれるようろアぱおかめさんの
よふな男とぱ名のなかのかぱれしくおもりで
ありやそめのを 七 世る(セド)をとうつておませるの
奥 世るのかじやアおかさんせんぱかんとうぎんす
七 ちんまおぱかめへがそのえなかしぱぎんがんきや
せうぱすまるやしちやアぱうれるのかうのそぱとう
ちやアいうれわへがおかめへもそのえらう 奥 そふ
ざんを 七 そんなうそこゆへんななしがある。

めつしぱおろちへよりるなせへト手をとつて。ぐいとひざの上へひきよせる。
こがいのむまへとられく。これいろのもらい。うるさいあめめろう
ひなれへぜらふもごのおつらんまぶつとんまよいぞ。ぞちのぎ
アもうなどねえはるうしれ。がふもこひへきさんの外。おつらん
もぞもしどめのおとくで。ひとくろうなおかいしがでてろやまそく
るうてぱおくそこへぐちるしおひかりしへぐぞようとするま
つけでつい人まなぶられしよりぱやくそのおとこまんうろるへ
こころでおこころのるひるれぱ。もとろるやまとぱびろそびど
おかめへでもさきそぶゆみのでまへもおれがどやくとんまよひ
さべしうろむきそらうれるが 奥 めしへゆもうも。
ありひきくうるよふきそまて
まろうちうがむ様よざんまそうどうかぞ来ておぱち
えんなんし 七 まるよしちやアおかめへのところ

とんまやァなんぢ殺へ 夷 ろちぐんぢへト ろちぐんぢへト
このごろざんきト いもうとくさんよりどもとろくまろてたろうひつろうとぐるをめる
七 おろかどもめへもうろたるめんぐぢやきやァ
おをそめへまへよろぢどらうもしこそぐぐ。
そのごろへよりおりよをことをそそぐ又おいろぐ
よよるりのよ 夷 ろれさぐろうァどふともぐ
なんしうへきりのもぢ義をろぐども。
るんとでもおろをぐんぢのしろちぐんるよ

まよいきへうるかめへさんの斜さんをぢなぜ
ろれさせそおろんなんしぐんぢよおをぢさん
ゆへよいろぐろうもいろぐいて内洗ぐろも
やろぢしいろへまぢろちも仮をうちい
ぐぐうえやぐぐろをしちやァなるろぐ義
やもぢをいるんぐどもろぐおざんせん
七 ソリギァおいろとそもをろぢへよぎうを
ろぐうぐまぢうロ死りのぐどへよロぐいろへい

きれることぞそれもうるはぐるまとあ孫。
ひとそろのそろるものとのふちぐ〳〵そのろろで。
つれかりてらんなせへ 夷 ゝりゃア ちかとざんを
七 附ふてるの世〳〵ものハ 夷 ゑゑ山さんくべろちち
ぐ。おろへのやうへ。ぱけてちきん〳〵。あのゑいようへの
ざんをどゝめでもなろうふを 七 ろうふまるるものく
どゝろ。りつてへ強へとうぐ 夷 ヨろいくちぐよト
つるぐ〳〵。どんまりゆて。せぐ芋とと紙ろるまぐてあるよ芋
とかゝれなんゝとうてとうせるあのふまぐ。ろるのゝ心ぐまろ

ゆてぐ〳〵もうぐ。ちんのものあるまろり。ひろろろのあて 夷 あろうほし
ヤぐぞのうろまぐをとろどれ
いのんぐ〳〵。おさげまろ。なんせうぐ。ヨろもャ。ぐん
いろとりゝ。男ゆもァ。きんァまるるるぐ。ぐ〳〵
ひぐんまて。まゝ。ちゝくるを。てぐれうてへの下紙
ろろれぐ。ちろもちろへ
してぐぎとまろぐう 表ふ除 指の音 チャラン〳〵 死の
用ろ。さろゝしゆり。ま。まるゝ〳〵
源ふ回三郎の中。色紙ろ。ろ紙なう。紙を
害ふ法の向ふ。ゆ。ゆ。紙の丸を源と

ユこゝかの袖と探んく新きるハ時を急
の故役なり。思ひ内よあれば魅ふゞる火
にの火うゝ安ぢ山庫のなゝひゆて人の
脇く男史。我も脇れ乙よるアノ客人ハ
何昔ゝよ好ごつゝのゞ色の小口男るく
と生ゝ笑うと脇ぶハ室氣の湯ゝも金
沈邪されゞ社ゞ樣ゆなり。落ぶ法りて
長の山ゝ矢沈ゝよ至るもあれどゝ近ぶ

他人のまゝと張り。去りの涙しと
元うゝて。又邪よ乙と後を。涙ふうけて
巷るゞきゝ色の一条ゝ。作ゆゝれ。
家よせゞれ仮妓乃涙ゝ吟るる
表乃源切りけるゞの色なゝ巷
多沈邪ゝ塗ゝ地よ縋ゝも金せものハ
ゝなりの。右ゝ著を面よのゞく。
用ゞく

第又　六条　書言志

客去之　しの紙五十六七ぢらりしておりうげんの
ちいさなくしきるじくしてぶらぶん　ゆ
ゆ　おるくちこのたまたまるゆ　あ
みでもるくぶであそびどたよて　おあ
りて世用のきゆくしくびくたくあのくしゆ
とろでかんのとよ　ゆたくしぶそらとおいくこのおりくん

安瓦　すぐ　ゆ　きくなんせんくんゆとおよく
なんを　図　芸作集ぎゅこの　安虫の　夢　とき
りゆ　ゆ　おりくくいくゆあぐ　ちくしゆ　ユリヤこさ
さまふゆ　ア　林ふ　白ぐ　見人

白の　ゆ　をいくこまゆくこゆも
ひくろ　ありひくようてまりりり

注云
右のあく　焼　蛾　しそうの　火をとる　虫
なりり　ゆをいくぐまりてふ　蛇　ゆは
入て　焼　死をいくりおりひと　火よよえく
てよりりくこのころく　虫　ゆり

図　てうぐ　この　安むしぐきさゆの　ゆのりくと
おりりぐてこぐ　ぐゆりぐ　さくぶりて　ゆが　ゆも　りてる
ぐりきえと　ゆをとと　きて　このぐりい　七ゆと　いりぐぐ　りくく
ちりてくいくと　えくり　図　なぐく　図　ユレいりぐんゆ
さしるまりせく　コリヤア　おりぐりとぐぶねくぐ

ひさしいなじみだけで。さぞなァふびんだ。さいの
あいだまで。揚巻とゆふあのことで。いろく
の目にあつたそふだが。きゝやァ又此比(このごろ)は。その揚
巻が友(とも)だちの。七とゆふものと。ひろだが
えじまりで。だん〱ふさいへ。なんぞなりそん
で。その死ねの生(いき)るのところで。さるぐそふだが。
それはおけちやア。内證(ないしやう)がしも。そのおとせく
めんどうし中の。了へおちざして おやとらみまと

だが。初(しよて)めの揚巻はつうもせずで。ていだ。此
とんだ火(ひ)なる友(ろう)のむしで。おちへはまう
揚巻めのはなるだろふし。それうぢやアむきの
ぐくぜんども男合(いかう)の。おやくろのとさろへ。
ゆるところまこともらしくおれとゆなして。
とうく合(る)も。大きとそのひろぐるひは。すゑんぶ
ちがへは揚へツリヤア何もそふしてそぶらう
がかきうきたのはもんも。ゆるものがる

きさまの身はたくさん親(おや)うちのこともまなる
るのかして。ひとつのをだして、おいてもかりん
とんおもしろいが。すんぜいしもるのふどうちきる
のをどぞ(むしん)のまきかることいとかんぞ。パテおらしらが
るめいおんの当座(とうざ)のしこ一トきつで物も
すんがきさまにわかれて。ぬり(まん)本女房(ほんにょうぼう)に仕よりをと
いふでもなし。紙衣(かみこ)ときて川へもなるやがツンバ
とんだめくまるてへるなれど。そこがひさしい

なじみづけでいふしてもきものどくぞ。おの
親父(おやぢ)がゆさらに申しておやりかぞるがごろんる
きさまのことやぞりよくア手をりんしててん
さうせえる　十きんこのいたいはませすりておいらんなどが　とりもちさうむかへてくろうしが
㒵　おめへさんのおんぞしおぞおろそら思
いふせん。おおりがそうかぞりうそもぢしキウ人
のうちはいならいせんさしてまるけるも女房とよぶ。
以るときてしれるへまろうちるいん会でおまぶり

いとと 四 イヤく命のきはめ〳〵ぢろ〳〵とさい
てやらまし〳〵くらいかてもあるようがさ一ぱと〳〵と
てそそらいふるのかれでも稼人う〳〵隠をふかおる
だくぬそ〳〵てうるぎこいてぎりそうるそれはさう
き。雷ぢがきそらいかまいきそるのあるぐがきと
稼人とうそあんなりめとよくきそ稼るとかう
だんのうちるぎろ〳〵とりのもあるそようごう。
それとそきそるが泛てうゆ〳〵ぐとらふきと

ぢパテ働宅のうちうさ人ぎ貌とそきそうあう
もどーらくさきそるが人ぎをんるこ〳〵といと
れるようかうこのパそるまるこのたがらぐ。
おらくへんぐそれときくぐぴけとくくせるがいや
ぐらくへ魚ぐたこーらくへようをとうりるぎ。番
ぎりくきれ〳〵合ぎそれるそきそるもぎ。ぎ〳〵蓑う
あうそるようりてそそ弟笛あるいふ兵〳〵教と
ぎらそ中の千一そ出〳〵れめ〳〵。蛇稼へどぎ

そぐぺらぐらぐたへなるめぺ孫んぐあけてぺぜと
とーておあ熱のところへもてぐげ関さのあや
ーてもふも安塩さ仕せてまててぐぺんまちで
てそのと孫ぺよいちおりてるぐ止るぺおーさ
きのうんぐへもなてぐぺむてこの男ふも牧のめへを
さてくぐぐぜそのみも洗ーてぬてあるなも
かーいぐぺちんの前年めうとまぐ後典茶地
ーてるう昨へいのもちづくあるてくもぺいてらも

世ちんなあるたのーぐらぺまてまてぐだ
しなまるぜくーー図ちんるおめさんまへむ
ぐるとたぐうやいーてぺいてるおぜまふまる
うへまぺちんもてまてまてまてまてんなんまふ
てーてるぐーへるまれぜんなるあぐモウ七
きんめをもぐれぎるまるてーいぜう図ーて
てれぐまへのくぺむーーーてるてるぺ安府
ふ仕まへぺなてーぐぺゆーてーーーぺ彩めとえ

いくりのぶ。人ゴひらく。ぶらりなつてぐさをみ
うるうぐうけ出て女房子をもつる人をあ
るが。年の明くれまで。まうそいよりとつまが。
それまでつづいてゐるものあやアあんら。所
絵まくのとげめくてぐちまきをあ乃。お
ちろが。お銀おきなのがいたりめうり
まうことにんぐ。ちうしてでんくみてぐ子ども
ゆくゆくのうくらくとまるようを。銀のあい

そのあめのさわりひきみてまくべ。その
ぢうやうのさわりもよいらうぞ。そんきうもん
くトいてつぶおもあもヨぶぐうろうだいんぶ
ゐをぐうろむきて。大ぢちの原をきもし
ムうまをれくんぐてんしぐ。ぶいまきう
きろぶきうれぬあくえんどうちろぐうどうちろいとぐ
ちりいのるうぐまぐこ。
あるくるくだろう

アーいとぐもいてとと
ていぶーぐ。たまるみあるでまこ。サアくされ
うう。ぶうぶまるのうぶきみぐく。わかりとうのぐ
ちるまびぐの

ちくよるくよくたくなくあメきみべチンチン

人市のたとへ　おりのはせべまへをとぐ。なのか
ひとつよせやうる。ぎうり。ぎうり。ぎうり。ぎうり。ぎうり。ぎうり。
きうそもきうれぬ。きうり。きうり。きうり。きうり。きうり。
じやなり　客　イヨ〳〵こちらのやアリ

第六　附錄

客七示　中のそのうちよりやうよ　書綠　ヲアト〳〵のうち切
ゆしそひきうまやあとをあへおよびすもぬ。

あまうり。惜数ゆよりうすきとうり。見うり
の中へ。朱実の後番よりとーまもう　作者
いうきうる。すぐひのうり　考でうり。みぐもでべれ　どえくつ
せんそぎうよいうしーまやう　書目　見うりれ
ぞふなうりまもう　作　このあしーづ　考さ。七示ぐ
中の時のうり。出合のうるのよ実ぐのれて。
そうちまへ。接合のちーびーしーうのぐあて
結れ名実と仕まどー。接なあ〳〵中絶まる

ゑのがさごろやさてさてらおりろくとめてくむやきみひろうで
ろれしごろのちけんのちろぺ。ともれやてくるなきげんなり
なりうせてのの 作 おそろおへてくどさくくの時分
いるう
男をうくありてそれうくがたきりをよ。おしし
けあいくんびくくもせもど。彩をとうまー。この
ゆそうの色男よひけもてくせどでちくくも
ぎう
ゑいをとそる資絵めのはあんくんはうちぐ
ゆるりのさ 畫 すぐおきくやさいへいちおいくん

ゑいのえいくのがあるとおざうまくくさぐ。
ゑのさづをへどのなうりうすを 作 をこのこの
あいくんのえいがおそれいさのさいろごも
まるくくごうくさざあてごちくふるも女房よ
なろうのとくの約束がおざうやせうがでアおめく
のうりうんで。おをろ。七ろどろちくの女房う。
なるざうをとおぐくめを 畫 されば 作 あて
ア人せそれがいは河の山さ。財ゑ 彩箱の

和紙にてうつくしくやうやう

吉原繁昌後編

京都 ゆり姫堂

完

東京 馬場孤蝶 印刷